



わたしのおすすめ

高校生が手作りの品々を直売

社長 **梶並広美さん** (津山商業高校3年・写真左)

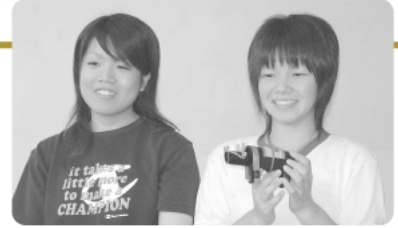
副社長 **森内彩加さん** (津山商業高校3年・写真右)

学校の課題授業で3年生が「TSUSHO(津商)ふれっしゅまーけっと」を初めてまちなかで開いたのは5年前。今年もまた開店します。

メンバー23人が作ったクッキーや巾着袋、近所の農家から仕入れた野菜などを販売します。今年の目玉は竹細工の「作州牛」。不慣れながらも私たちが1つ1つ組み上げました。



また、開店に先駆け、市場調査のアンケートを商店街やスーパーなどで行い「何を買いたいか?」「いく



らぐらいなら払うか?」などについて約200件の回答を得ることができました。その結果、1回1,500円までで季節の野菜や雑貨を望む声が多いことがわかりました。

手作りの加工品があるため保健所の手続きも行います。販売だけでなく、いろんな体験を通して社会の仕組みを学んでいきたいです。

みなさんもぜひ足を運んでみてください。

TSUSHO(津商)ふれっしゅまーけっと

とき 10月1日(土)、11月5日(土)、1月14日(土) 午前10時~午後2時

ところ まちなか・こども基地(堺町)

問い合わせ先 津山商業高校・三村先生
☎22-4336

ほっと情報

津山生まれの高原野菜

五輪原高原大根初出荷



加茂地域の標高1,100mにある五輪原高原で涼しい風を受けて育った青首大根が8月中旬に初出荷。2年前には台風、昨年は長雨のため不作でしたが、今年はずみずみしい大根が選果場にずらりと並んでいました。



現地での生活はどうでした? 水が出ず、電気が止まるような生活が数日間続くことも。また、近くの店まで3キロも歩くため、買い物には一苦労でした。

大雨が降ったときに屋根から流れ落ちる水でシャワーを

今後の活動は? 海外に出るチャンスがうかがいながら、日本の子どもたちに自分の経験を伝えていきたいです。現在、国際協力機構の国内訓練所で海外協力のボランティア事業に携わっている三村さん。今後、様々な国を舞台に活躍されることを期待しています。

浴びたり、キリンの群れに出会ったりと、今振り返れば楽しく、多くのことを経験しました。



山だいき！



わたしも
わたくしごと

市民の意見は
市政に反映
されていますか？

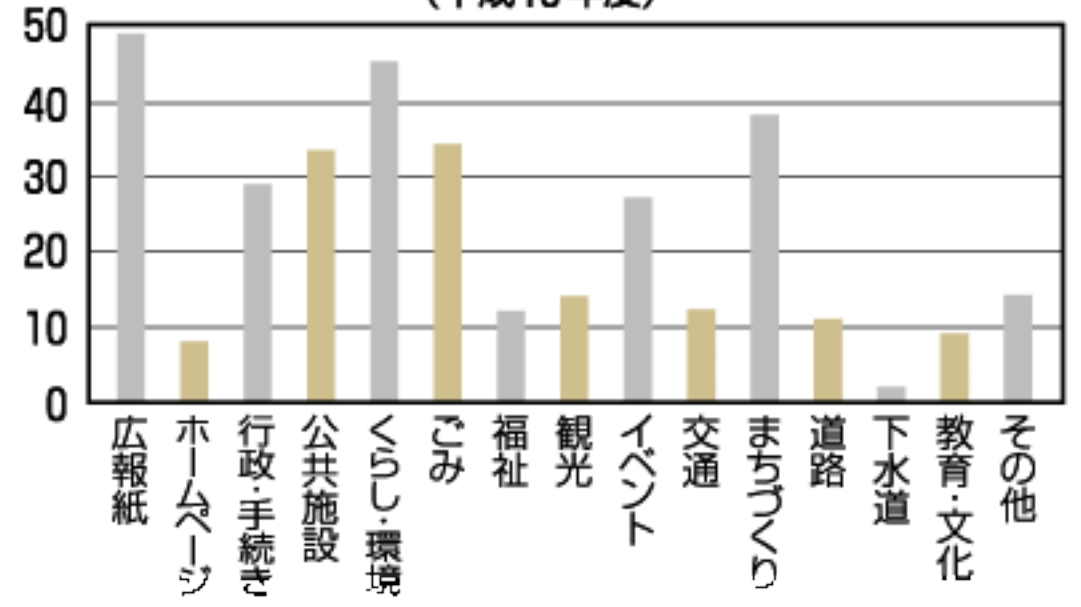
市民がはがきやメールなど
で送った意見はどのように反
映されているのでしょうか？
(高野山西・女性)

行政広報室へ届くみなさ
んからの声は、平成16年度
で344件。自分自身に関
係することから市の展望ま
で、内容は広範囲にわたっ
ています。そして次のよう
な流れで対応しています。

- ① 受付
 - ② 担当課へ伝達
 - ③ 必要な場合担当課
から回答
 - ④ 市長・助役へ報告
- ←.....

すぐに対応できないこと
もありますが、速やかに行
うよう努めています。また
必要な場合には直接本人に
も回答しています。
そして、これらの内容を
プライバシーに配慮してデ
ータベース化し、職員が業
務の参考にしています。
行政広報室 32・2029

はがきやメールなどで寄せられた意見・提案・感想の分野別件数
(平成16年度)



未来をひっぱる 津山人

家族の大切さ、教育の必要性を再認識

三村良平さん(独立行政法人 国際協力機構・国内協力員)



員には教え方のわからな
い人が多くいます。
私は、塾の講師の経験
をいかして数学の授業の
教え方について彼らにア
ドバイスし、教員のため
の研究会や、子どもたち
への特別授業などを行
いました。

今回は、青年海外協力隊員
として南アフリカ共和国に2
年間滞在し、今年4月まで黒
人社会での教育の普及に力を
注いでこられた三村良平さん
(林田出身)です。

現地ではどのような活動を行
っていたのですか？
旧黒人隔離地区にある教員
センター(日本でいう教育委
員会)に勤務し、教員への支
援・助言を行ってきました。
近年までアパルトヘイト(人
種隔離政策)が行われていた
この国では、長年黒人への理
数系教育の水準を低く抑える
政策が取られてきました。そ
のため、そこで育った黒人教

そこで得られたものは？
授業のカリキュラムを決め
る州や国の会議に参加できた
ことは大きな成果でした。
また、たくさん子どもたち
に出会いました。その多く
は、両親が都市へ働きに出て
いるため、兄弟姉妹のめんど
うを見て家族を支えています。
遠く離れた水道まで毎日水
をくみに行き、家族の夕食を
作るといった役割が、小さな
子どもたち一人ひとりにあり、
労力を惜しまない姿がとても
印象的でした。家族の大切さ
を感じるとともに、そんな子
どもたちへの教育の必要性を
再認識しました。

